

原発をどう乗り越えるのか 6月27日 反省会にて

岩越 松男

出席者 笹村、小野夫妻、山室、近藤、石井、岩越

記録 岡田

感想文では多くの方が何らかの会の続きを期待していました。ではどのような形で継続すべきか話し合いました。

新しく会を作ることはせず、それぞれの団体でテーマごとに活動してほしいというのが私の意見でしたが、それにしても、何らかの、プラットフォーム機能としての事務局は必要ということになりました。そこで、暫定的ですが連絡役機能に限定し事務局を作ることになりました。

今回のシンポジウム企画については小田原市環境政策課が会場や会議室、チラシの印刷等協力していただきました。小田原市としては、今年度から市の新エネルギー政策を推進するにあたり、民間の主体的活動に期待しています。今回私たちがテーマとした、「これからの暮らし、生き方」を問いながら市の政策と共働できるのであれば取り組む意味はあると確認しあいました。また、その際には、今回十分に周知できなかった他の団体にも呼びかけ、それぞれの活動が違っていても問題を共有することが一番大事ではないかと思えます。

個別のテーマの例として、以下のようなものが話し合われました。

- ・地域・自給エネルギーの試行
- ・教育現場での対応に関する相談
- ・農林水産業での対応、回復に関する取組
- ・そのほか暮らし向きに関する相談の場

すでに対応しているグループもあるでしょうし、ほかにも要望もあるでしょう。個人で悶々としている人たちが孤立しないように、出来ることからそれぞれが主体的に活動を始めたいことを望んでいます。

これまでの原発に関する活動は、対立し、孤立化していく道が多かったと思います。しかし、今回のことで、「いのち」を優先し、課題を抱えながらも話ができる場づくりが大事であることを当日の話からも、感想文からもうかがえました。どう進展していくかわかりませんが、目指すべき方向は、「私たちの暮らし、生き方にたいする転換が必要」だということです。じっくり、ゆっくり、ねちっこく続けていくしかないのだと思います。

以上